

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	NPO 法人朝霧森林倶楽部
活動タイトル	「雁皮の里づくり」を目指して
活動地域	高知県四万十町



4月5日・雁皮植え・和紙作りの人達応援

【活動の目的・目標】

雁皮の種子からの播種、発芽、その後の育苗等一連の苗木栽培の成功率向上が毎年の課題でもあるが、発芽率は95%達成できてもその後の生育率が70%程度と思わしくない。

活動計画はほぼ計画通り進行出来ている。

2. 5年前に移植栽培を始めた苗木の内、約50%は予定より早く収穫・伐採製品化した。



4月28日・防雨装置用鉄骨枠組み工作中

【今回の活動で苦労した/工夫したこと】

毎年のことですが、種の植え付け後、発芽率は約95%に達するのですが、ポット数に対する苗木の活着率が向上しません。その原因として

- ① 芽立ちの頃、蝸牛の食害を受ける
- ② 春先の大雨の際、防雨設備の不完全により流失する苗木がある
- ③ 今年初めての例で、ヤスデの食害を受けた
- ④ 水遣り作業中など、機械的に折損させる例
- ⑤ 原因不明だが、成長の著しく悪い苗が相当数



5月20日・栽培雁皮の初収穫、刈取り作業

【活動の内容・成果】

年間の、人手を要する大きな作業は、播種、苗木移植、刈取り・皮剥ぎ・製品化、雑草除去等管理などがある。

上記の特徴的な内容は、播種及び刈取りの際、県下の和紙業界のメンバーが助成に加わって頂いた点が挙げられる。

移植後、製品として収穫までには3か年は必要と予想していたが、上半期予想以上に早く実現できた。

本格的な防雨設備のために助成を利用して頂き、7月までには完成出来させた。

東又小学校の学校林に自生する雁皮を、6年生に収穫製品化させ、協力和紙業者に提供した。

この原料を活用し、下半期には業者の指導の下、生徒自身での卒業証書用紙の紙漉き体験を行う。

【団体概要】

人工林の健全な育成のため、町内山林の間伐作業等を第1の目的とし、平成27年5月NPO法人として新たに出発した。会員数は多少の増減はあるが現在二十数名より成る。

年間約15haほどの間伐等を行い、学童への環境教育等も行っている。

実験的に雁皮の栽培作業に取り組んできたが、ほぼ実用への目途がつき、今後規模の拡大を目指す予定である。

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



東又小学校は生徒数60名足らずの小規模校ですが、至近距離に10haの学校林を有する。この森林中の日照良好な場所に自生雁皮の群集が観られ、昨年来成長木の伐採や、黒皮除去など、和紙原料の生成体験授業を行っている。更にはこの原料を使用して、自分たちの卒業証書用紙の紙漉き体験を予定している。



8月22、23日明治学院大学等の学生、教授を含め12名がチェーンソーを使用した間伐の体験や、木工教室での体験授業などを行った。更に、生育した栽培雁皮の収穫作業等も実施した。悪天候により、予定コースの100%は実行できなかったが、異次元の自然環境中の生活に浸ることが出来たと思われる。



32回のイオン環境活動助成を利用の上、防雨装置の設置に取組み、鉄骨等を購入の上、約5M x 7Mの設備を完成させた。この設備により、今後発芽初期の間の大雨による流失や消失トラブルが防止可能となった。



9月現在の本年育成苗木の状況。1ページの「苦労した/工夫した」にも述べましたが、苗木の育成でも新しい課題も発生しました。山地への移植後にも、本数が増加するに連れ、或は移植地が変更になるなど、条件が相違するに従い新しい問題が発生します。それらに対処する手段、或は人数など、クリアすべき問題は多いのですが、答えを蓄積しながら前に進みます。